

神奈川県 清川村



神奈川県でたったひとつの村

# 清川村

*Kiyokawa Village Guidebook*





ようこそ、清川村へ。  
都会のすぐそばにこんな場所があるなんて、驚きました？

# 山笑う、清川村の春

寒い冬が終わったら、  
春の息吹を感じに、清川村へおいで！

## 初心者もOK！村を 取り巻く山々へ行こう

都会の奥座敷として、首都圏にあつてもまっさらな自然が多く残る清川村。自然の動植物の宝庫でもあり、暖かくなると山や川で眠っていた生命が目覚まし、うきうきと弾むような空気が漂いはじめます。

清川村は東丹沢山麓に位置し、面積の約90%が山林で占められている。そのためこの季節は花見客だけでなく、新緑を求めて多くの登山客やハイカーたちが訪れる。

## 【宮ヶ瀬湖畔園地の桜】

吉野桜をはじめとする1,000本の桜が華やかに咲き乱れ、園地内にかかる宮ヶ瀬水の郷大つり橋などを背景にした絶景が楽しめる。4月には「宮ヶ瀬桜まつり」も開催。



## お茶の産地 清川村



新茶の時期にぜひ試したい清川茶。6月に行われる「清川産業まつり」では新茶の販売も行われる。

## 【清川村周辺の山】

周囲を山々に囲まれている清川村。辺室山(644.3m)へ続く「物見峠ハイキングコース」や仏果山(747.1m)へ続く「仏果山ハイキングコース」など、様々なハイキングコースが整備されている。



## 【新緑のブナ林】

県道秦野・清川線の脇から入る塩水林道(車両通行規則・通行止め等あり)から、丹沢山への登山道の北側堂平エリアには、斜面一帯樹高20mをこえるブナが林立し、厳粛な雰囲気漂わせている。周辺には弁天杉と呼ばれる胸高周囲7メートル以上、樹齢約千年と推定される杉などあり、見どころが多い。



## 春のイベント

### 宮ヶ瀬桜まつり (4月上旬)

宮ヶ瀬湖畔園地と宮ヶ瀬水の郷商店街で実施。各種イベントやステージ、露店なども登場。

### 清川産業まつり (6月上旬)



産業の活性化を図り、心のふれあいと連携のあるふるさとづくりを目指して開催。新茶をはじめ、新鮮な野菜、植木植物、豚肉加工品、商工品の即売などの催しがたくさん。

# 伝統行事 青龍祭

江戸時代の雨乞いの儀式を再現  
燃える2頭の龍に祈りを込めて



## 村丸となって作り上げる 地域の誇り

清川村の祭りの中でもひと  
きわ個性を放つ青龍祭。この祭  
りは、江戸時代から昭和初期に  
かけて行われていた雨乞いの儀  
式を再現したもの。昭和61年  
に地域学習活動の二環として復  
元して以来、村以外にも多く  
の人が訪れる夏の一大イベント  
となった。

この伝統行事は、毎年1月に  
青龍の骨組みに使う竹を切る

ことから始まる。龍本体の制  
作や、開催当日の様々な儀式の  
中心となるのは、青龍保存会の  
メンバーだ。そこに子どもたち  
や婦人会などの団体が加わり、  
伝統を学びながら地域全体で  
祭りを盛り上げている。

平成28年に30回を迎えた青  
龍祭。この日は祭りの盛り上が  
りとともに雨となり、クライマ  
ックスの昇龍の儀の後はどうし  
や降りに！それはまるで、2頭の  
青龍がこの節目を祝っているか  
のような、見事な雨だった。

## 夏のイベント

### 宮ヶ瀬ふるさとまつり (8月15日)

宮ヶ瀬地区にて行われる  
夏まつり。メインの花火大会  
をはじめ、特設ステージ  
で各種パフォーマンスが行  
われる。



### 青龍祭 (8月上旬)

煤ヶ谷地区で行われていた雨乞いの儀式を再現した伝  
統的な祭り。

## ◆青龍祭の流れとみどころ



### 【材料を収穫】

龍の体は竹・カヤ・ワラでできている。竹は1月に切られ、2月に  
骨組みとなるタガ(竹で編んだ輪)が作られる。カヤは専用のカ  
ヤ場で育てられ、7月に刈り取って数日間干す。



### 【龍の体を制作】

龍の体の組み立ては青龍保存会の指導の下、7月から約6  
日間かけて村の小学校で行われる。ワラを編む「こも編み」や  
カヤで作った「うろこ付け」などは、地元の小・中学生も参加し  
行われる。



### 【青龍パレード】

祭りの当日は、村の小学校から本祭会場  
までの約2kmのコースを2時間かけて移  
動。大人と子どもと一緒に「わっしょい」と  
掛け声を出して、威勢よくパレードする。



### 【昇龍の儀】

本祭会場では、参加者がそれぞれの願いを書いた祈願札を龍  
に取り付けることができる。夜になると、祭りがクライマックス。  
青龍太鼓の猛々しい演奏の後、松明で龍に点火。炎は一気  
に燃え上がり、2頭の龍は人々の祈りと共に天へと登っていく。

### 雨乞いの 「雌龍・雄龍」

昔、煤ヶ谷村を流れる大川の淵  
に、大きな雌龍、雄龍がそれぞれ  
住んでいた。2頭の龍は大変仲が  
良く、雨を降らせてはお互い会  
話をしていたが、やがて結婚し  
天に昇ってしまった。江戸時代の  
天保の頃、日照りが続き村人は困  
り果てた。そこで、蛇籠(じゃかご)  
で雌雄の龍を作り、川の淵に沈め  
たところ、その後三日三晩、雨が  
降り続いた。それ以来、日照りの続く  
年には、村人は竹で編んだ夫婦  
籠を作り雨乞いの行事を行った。